

# 人民新聞

発行所：人民新聞社

〒567-0815 大阪府茨木市竹橋町2-2-205  
TEL (072)697-8566 FAX (072)697-8567  
Mailto:people@jimmin.com  
HP:http://www.jimmin.com  
Twitter: @jimminshimbun  
振込口座 PayPay 銀行支店名:005 または  
ビジネス営業部 普通口座番号:6259737  
ユウクミジミンシンブンシヤ



- ② 滋賀びわ湖で広がる反原発
- ③ G7ではなく、Gサウスへ
- ④ 【遠方取材】PTSDの元復興
- ⑤ 兵と暮らした家族の交流館
- ⑥ 3.11後の反原発クロニクル
- ⑦ 岸から岸田へ、続く米追従
- ⑧ 救援センターへのカンパを



「子ども脱被ばく裁判・判決前集会」で歌う福島関久雄さん



毎月19日17時半～首相官邸前で抗議  
第二土曜が新宿アルタ前街宣(要確認)



3月12日1号機、14日3号機が連続大爆発

## 3.11特集

### 原発推進と福島帰還政策を止め 被害者救済と責任追及を！

脱被ばく実現ネット 宮口高枝・松岡加代子

「闇は光に勝てない 嘘は真に勝てない 真実は沈まない」  
福島第一原発大爆発事故から12年目の春が来る。日本の人権無視は加速した。政府は一般大衆の放射能被ばくの年間限度を年間1ミリから20ミリシーベルトへ一方的に変えた。20倍もの被ばくを甘受させる新たな「国策」下、福島原発から放射能が拡散され続ける中で私たちは12年も生きている。福島の高濃度汚染地でも帰還政策が進んだ。住民は放射能問題を口にすることを懼られ、風評加害者と攻撃され、互いに監視するような雰囲気。暮らしを強いられている。そこで柳原敏夫弁護士と郡山市の住民は、事故直後に福島からの集団疎開を求める裁判を起こした。私たちは首都圏から支援するため「ふくしま集団疎開裁判の会」を結成した。13年の敗訴後も「脱被ばく実現ネット」と改名し、後継の「子ども脱被ばく裁判」支援や、首相官邸前や繁華街で被ばくの危険や避難の必要をアピールし続けている。東日本では数少ない重要

な行動だと思っている。だが、安倍に続き岸田政権も原発推進・被害者切り捨てだ。原発新増設の大転換を国会の議決もせず閣議で決める。東電の主張通りに旧経営陣に無罪判決を言い渡す。放射能汚染水の海洋放出も認め、今春から夏にかけての放出計画は地元や漁業者への説明も不十分で、理解も得られていない。国は軍事国家化も一気に進め、日米軍事一体化の敵基地攻撃能力で協力。安保3文書も改悪する。福島原発災害は、日本

史上最悪の人災だ。だが事故の補償や責任が無視される中、原子力規制委員会は「原子力推進委員会」と擲論される審議状況だ。原発の60年超の運転を可能とする政府案に対し、地質の専門家・石渡明委員が「安全側への改変と言えない」と主張して異例の反対意見を述べたにもかかわらず、これを退けて採決。子ども脱被ばく裁判は、「子ども人権裁判」と「親子裁判」があり、前者の控訴審が2月1日に仙台高裁で却下された。原告子どもたちが今年3月

に中学校を卒業し、原告がいなくなる状況の中、石栗正子裁判長は法廷撮影が終わると、原告ナンバーを読み上げ「却下する」と発言。正文も理由も読み上げず法廷を去った。内堀福島県知事ら被告側5人を証人申請する要求も、認めなかった。仙台高裁前で、今野寿美雄原告代表らは「司法は再び子どもを守らず！不当判決！」と掲げた。裁判の三権分立を捨て、権力におもねる判決で、子どもたちの主権を見捨てる許せない行為だ。

「明らかな差別に批判すること」で差別批判をしている「私」というリベラル思想に留まってしまう人々を生産し、民衆内部の思想的反省力を弱めることを遂行している点でも警戒すべきだ。私たちは、一方で大前提として基本的人権や差別反対の声を高めねばならない。他方でそれを語る私たち内部の権力差と、それによる見えにくいハラスメントを批判する必要がある。差別とすら思われず差別を行なってきた最大の領域はジェンダーであり、自己内部に対する批判が最も必要な領域だ。批判が反自民方向のみに留まる時別方向にある身近なハラスメントに気づく努力を放棄してしまうのだ。社会的不正義が明白な時こそ、批判は全方向的でなければならない。(K)

もう一つの「親子裁判」も、判決目前だ。そこで私たちは2月12日に東京で、「子ども脱被ばく裁判・判決前集会」を開催した。映画『かくれキニシタ』の上映では、関久雄監督が「題名は、保護にきた母親が『私がかくれキニシタ』です。子どもが夏休みなどに入ると、周囲には黙って隠れて保護に行っているから」と話したからです」と解説。柳原敏夫弁護士は、「子ども脱被ばく裁判の最新情報とその意義」を話し、「これは被ばくに苦しむ無数の無名の人々の苦

しみや悲しみの声を聞き、覚醒した私たち市民が『生ける法』を作り、それを突きつけるものだ。権力が私たちを審判するのでなく、権力が民衆の審判にさらされるために、裁判の判決は出される」。原告の橋本俊彦さんは、「事故後福島で『放射能は安全』と講演を続けた医学者の山下俊一氏は、『皆さんは国に従う義務がある』と言いつつ、PTA総会では、学校も親も放射能は一切触れなかった。それでも私は東京へ、その後松本へ避難した」と話した。「子ども甲状腺がん裁

判」の若い原告も、「甲状腺がんと診断されたが、周囲から差別され、風評加害者とバッシングされるのではないかと誰にもいえない」と話した。この言論圧殺状況は、戦前と同じだと強く感じた。発言者らのパネルディスプレイでは、「事故が起きたら情報は全て隠蔽され、被害者は攻撃される。でも黙っていたら攻撃は強まる。声を上げ続けよう。自分の足元で、自分のできる方法で」と口々に訴えた。

被ばく被害は増え続けられており、隠し切ることができない。私たちも、脱被ばく・避難・反原発の声を上げ、行動しよう！

首相秘書官が同性婚に反対するという差別発言をした。記者の前で簡単に喋れるというのは、それだけ何も考えていなかったのだらう。しかし私たちは、明らか差別に反対するだけでは展望を構成できない。私たちは、私たちが日常生活で実践してしまっている、よりミクロな差別を批判できなければならぬ。自民党政治は明らかに差別政治なので、それのみを批判していると、徹底的に批判すべきミクロの差別が見えなくなるのだ。自民は

### 福島・戦前同様の言論圧殺 勇気を出し声を上げる被害者たち



首相秘書官が同性婚に反対するという差別発言をした。記者の前で簡単に喋れるというのは、それだけ何も考えていなかったのだらう。しかし私たちは、明らか差別に反対するだけでは展望を構成できない。私たちは、私たちが日常生活で実践してしまっている、よりミクロな差別を批判できなければならぬ。自民党政治は明らかに差別政治なので、それのみを批判していると、徹底的に批判すべきミクロの差別が見えなくなるのだ。自民は



雪の歩道を行く「脱原発市民ウォーク inしが近江八幡」。デモは定例だ

### 【3.11 滋賀県】 老朽原発に隣接する 反原発の思いと運動

稲村 守  
(さいなら原発・びわこ) (さいなら原発・びわこ) ネットワーク事務局長

物理学者の木原壯林さんから、福井県若狭の老朽原発を廃炉にする運動を数年前に聞いた。自分が住む滋賀からそれに取り組むことで、私の残余の人生設計は立った。

先日古希(70歳)を迎えたが、初孫が高校生となる80歳までに新設・増設を阻止できれば、若狭の原発は全廃となるだろう。孫が高校の運動部に入っていたら、その応援にも心置きなく行ける。96歳まで生き抜き、原発

#### JR山科乗客閉じ込め事件に遭遇

全廃を見届け、共に運動する中、若狭に居住職に看取っていたら、

ところが、その前に「あやや窒息死か」という事態に遭遇した。私は1月24日から翌日までのJR西日本山科駅乗客閉じ込め事件の被害者となった。

午後7時過ぎの京都駅発の湖西線で帰路について、ところが列車は次の

山科駅まで約1〜2キロ地点で突然停止。原因はポイント故障で、超満員の乗客1400人は7〜10時間もの間、8両の車内に閉じ込められた。気絶し失禁する者もあり、16人が救急搬送された。車内では私が最悪だった。やっと車外に出られたと思つたら、次は極寒の凍結・積雪・暗黒のレーリ上。一列縦隊で整列させられた。2時間後の午前

4時、ようやく山科駅に着いた。その後、私は京都市施設の寒い板の間で3時間半寝かされた。私より遅れてきた250人は、地下通路に新聞紙を敷いただけで寝かされていた。

「10年に一度の寒波」の交通網直撃で、とりわけJR西日本管内の京滋エリアで15本、7000人の乗客被害が出た。高齢者の多い時間帯だったら、

#### 大津の脱原発市民ウォークから大阪若狭のリレーデモへ

福島第一原発事故で、妻の友人が福島県双葉町から東京に避難した。事前に「避難すべきか」と問われ、私も賛成した。だが避難後に友人は、「自分だけさつさと安全なところに逃げてしまった」と苦に病んで、自殺した。以来妻は、私の会話を一切拒否している。

それでも私たちは、同年5月8日、市民運動の仲間と「脱原発市民ウォーク in 滋賀」を呼びかけた。予想を大きく上回り、300人が大津駅前集合した。以来、月例行動として計110回開催した。50回目に記念として史上初の「原発全廃！びわ湖一周デモ」を実施し、

多数の死者が出ただろう。ポイント故障の原因は、国鉄分割民営化での国労保線組織の解体、合理化による経験者不足と要員減、さらには経費削減で融雪器を使用しなかったことによる。

この日に原発事故が起これば、避難は不可能だった。特に改めて40年越えの経年劣化した老朽原発再稼働は絶対停止すべきだ、と強く思った。

5日間で750人が参加した100回記念では、湖東・近江八幡での「のれん分け」デモも実現。毎月第4土曜日に開催している。12年には市民運動、日本基督教団関係、平和センター関係者のネットワークとして、「さいなら原発・びわこネットワーク」も結成。今年2月には第12回総会を開催し、記念講演の弁士として井戸謙一弁護士を招いた。

そこからは連続行動だ。来る3月11日には、平和センターから県労連系、立憲民主党系から社民、新社会、共産、れいわ系、緑の党も参加する第11回目となる「原発のない社会へびわこ集会」を、

2023年が明け、介護業界では驚くような業界再編が進んでいる。

まず関係者を驚かせたのは、訪問介護業の「そよ風」で全国的に知られるユニマツト社が、投資ファンド(MBKパートナーズ)の傘下へ加わったことだ。これは業界トップの介護事業者が新たに生まれた瞬間を意味する。介護は今後、益々一部の関係者が弄ぶような世界になるのだろうか。

こういった介護事業の大規模化は、財務省の意向でもある。現に「町場の小さな介護事業者は撤退してほしい」と文書でも発表している。

ユニマツトが投資ファンド傘下に  
大手の寡占・支配が進み  
個性失われる介護業界

@Hayato\_barrier 遙矢当 (はやと)

私が現地で相対した新経営者は、まだ30歳を迎えたばかりであった。現経営者とは親子ほどの年の差がある。私は、そんな2人の経営者が介護という場で出会うのを不思議な思いで見ている。

高齢者住宅を購入しようとしている若い経営者

そういつた中、旧知の会計事務所から、埼玉北部で高齢者住宅を運営する経営者が事業譲渡を行いたいので整理を手伝ってほしいと連絡がきた。

2月上旬、現地へ向かうと礼儀正しい介護職員が私を出迎えた。順調な運営に見える高齢者住宅なのに、なぜ手放そうとするのか。疑問に思った。

「ここ2〜3年は、コロナもあつたし。私も還暦だからこれからはのんびりしたい。こうつぶやく精神な男性経営者は、介護未経験ながら事業を立ち上げ、埼玉北部で3カ所の高齢者住宅の開設に成功した。経営的には順調で、通常なら手放すには惜しまれるような状況でもあつた。同経営者には息子がいて入社もしていたが、後継者として禅譲することもなく、創業者1代で手放すという

誰にとつての「多様性」なのか

は、運営方法を大幅に変えたいという腹案を持っていた。それは、最近流行している「医療サビラスをふんだんに取り入れた、病院のような運営を指す高齢者住宅」への転換だった。確かに、入居する高齢者一人当たり(3面下へ続く)

# 被爆地・広島開催の戦争サミット 新しい世界のつながりを作ろう

喜多幡 佳秀 (ATTAC関西グループ)

G7サミットは、年に一度「先進国」を自称する国家の首脳が歓談し、記念撮影をする私的なイベントにすぎない。しかし、開催国が国家の威信を賭けてその成功(話題性と治安)を競うため、五輪・万博と並ぶ迷惑イベントとなっている。

## 世界を脅かす存続危機 今こそグローバルサウス

今年G7サミットは日本が開催国で、5月19日21日に広島で開催されるほか、全国各地で関係国が予定されている。岸田首相はこの晴れ舞台で、昨年の参議院議員選挙後(安倍元首相の死去と国葬をめぐる騒ぎの後)に、猛烈な勢いで進めてきた戦争国家化の「実績」をアピールすることにより、政権支持率を浮揚させ、長期政権への道

岸田政権がウクライナ戦争に便乗する形で「日米同盟の新しい段階」、つまり米国の軍事戦略への能動的な関与(特に「台湾有事」を想定した自衛隊の実戦配備)を進めている中で、日本では経済・社会を含めて急激に戦争ムードが広がっている。太平洋・インド洋をめぐる米・日・豪・印の軍事的連携に加えて、昨年以降NATOとの軍事的連携も急速に進んでいる。



1月にスウェーデン、フィンランドなど北欧の平和団体が呼びかけたオンライン・フォーラムに私も参加した(日本時間の深夜だったので、一部しか参加できなかったが)。

核抑止力戦略とそれに基づく歯止めのない軍拡・戦争挑発を正当化するために、被爆地である広島を政治利用するという暴挙が許されてはならない。広島で原爆投下の責任を問い、同時に日本の戦争責任・植民地支配の責任を問うさまざまな行動に取り組んできた市民運動の仲間からの呼びかけに応じて、「G7広島サミットを問う市民のつどい」が実施された。同実行委員会では、サミット直前の5月13日に「G7広島サミットを問う市民のつどい」、同月14日に原爆ドーム前で集会と市内デモを計画している。詳しくは同実行委員会のブログを参照していただきたい(G7広島サミットを問う)で検索。



22年ドイツでのG7反対デモ

進むことへの違和感が共有されているという印象があった。メインスピーカーの一人のウォルデン・ペロリさん(元フリップン下院議員、昨年の大統領選挙では副大統領候補として立候補)をはじめ、何人かの発言者が核戦争の危機・気候危機・難民危機などの人間社会の存続に

(2面下から続く)の売り上げは、従来とは比較にならないほど上がっている。そして医療政策の不備の間隙を縫う事業スタイルは、同業者や行政からも批判されにくい。現経営者はこれに対して、若い経営方法を尊重するスタンスを示した。私は静観していたのだが、残念な気持ちになった。SDGsを始め、名目ばかりで「一人一人の多

日本ではウクライナ戦争をめぐる世界が分裂し、価値観をめぐる争い(西洋的民主主義か、ロシアや中国のような強権支配か)が最終決着(一方の側の勝利)に向かっているかのような空気が醸成されている。しかし、それは表面的であり、西側世界の偏見ではないか。むしろこのフォーラムでは、グローバルサウスを始めとする市民社会のシニア層の連携の可能性という共通の感覚ある(予感)が広がっていることを実感した。

## 待ち受ける戦争のための増税 G7で浮かれている時ではない

G7を主宰する岸田首相は1月に訪米し、バイデン大統領との会談で日米同盟の深化が新しい段階に入ったことを誇らしげに語った。バイデンはそれを「日米軍事同盟」として言及した。たしかに専守防衛という建前を投げ捨て、米国の戦争に日本も積極的に関与する、文字通りの軍事同盟だ。

「多様性」とは、一人一人が勝手に生きればよいという社会ではない。必要なのは、多様性の担い手や、その思いをくみ上げる社会ではないだろうか。担い手が一面的になるのなら、それは社会の中で「支配」と呼ぶべきものだからだ。

# PTSDの元復員兵と暮らした家族の交流館

## 戦争は終わらない 世代を超えて連鎖する 「戦時神経症」という傷痕

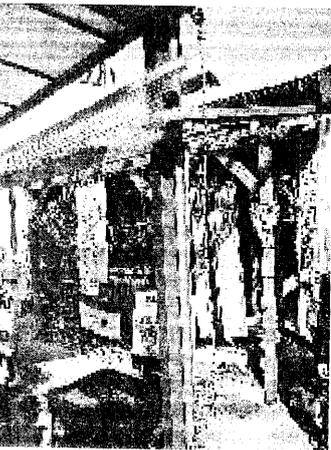
編集部かわすみかずみ

戦時中の体験による戦時神経症「PTSD」の元復員兵と暮らした家の苦しみ、何世代にも渡って連鎖することが、最近になり分かった。設立者の黒井秋夫さん(74)など始めた。東京都武蔵村山市にある、その実態に迫る。

黒井さんの父親の慶次郎さんは、山形県出身。1932年に20歳で出征し、中国の吉林省に行った。慶次郎さんは農民に紛れたゲリラを掃討する「匪賊作戦」にあたり、優秀な兵士として「善行証書」を授与されていた。戦後に復員(軍務を解かれた兵が帰郷すること)し、黒井さんら3人の子どもを育てたが、黒井さんによれば「無口で変わった人だった」という。人付き合いを避け、



黒井秋夫さん



▲交流館の外観

た。この時初めて、黒井さんは父親が戦時神経症だったと分かった。黒井さんは下船後「戦時神経症の家族の語り部になる」とさち子さんに伝えた。だが、

嫁いだ娘に影響はないのか?という心配がよ



交流館の看板

ぎった。さち子さんの実家が家の近くにあり、付き合いがでなくなるかもしれないという懸念もあった。黒井さんの家には親族が年1回集まり、そういう交流もできなくなるかもしれない。そこで、約2年かけて妻や子ども、親戚に思いを伝えていった。親族や子どもたちの中に反対する者はいなかった。黒井さんが語り部活動を始めたもう一つ

### 秘めていた父親の暴力 癒し合う当事者同士の語り

筆者は2月28日に交流館を訪ねた。その日は午前10時から「PTSDの元復員兵と暮らした家族の交流会」が、午後2時から9月23日の「第一世代」、復員兵と暮らした家族に育てられたの「第二世代」、関心の実行委員会が行われた。この日初めて東京で行われた交流会は、話が

らだ。証言者の中には軍隊式の生活方法を強要されたり、暴力や暴言に悩まされた人もいた。証言者が語る戦時神経症の元兵士に共通する特徴として、①アルコールやお金など特定のものへの強い執着、②怒ると見境なく暴力を振るう、③無表情・無口・人付き合いを避ける、④仕事が続かない・働かない、などがあつた。

どがあり、とても怖かったとゆうこさんは語った。実母は、ゆうこさんが1歳のときに家を出た。父親の度重なる暴力と女遊びが原因だったという。ゆうこさんがもては妊娠させ、子どもができたら捨てることを繰り返した。怒ると母を殴り、髪の毛を切つて丸坊主にするような人だったという。

初参加のゆうこさん(仮名)の父親は、中国戦線に従軍。父親のアルバムには連隊長としてのたくさんの戦果を称えた賞状があつた。このアルバムには、父親が従軍中に中国人をリンチしているところや、刀で首を切る寸前の写真などがあつた。ゆうこさんは高校を中退し、父親に関東の織物工場へ奉公に出された。しかしゆうこさんは自分で生きるために工場を辞めて、東京に出て以後、ナイトクラブの事務員やウェイトレ

スなどをしていた。ゆうこさんは父親との暮らしの中で、男性への恐怖を抱き、人前で話すことができなくなつた。誰にも頼ることができず、ゆうこさん曰く「寄る辺ない暮らし」だったという。今は年金で暮らしている。「交流会に参加してよかった」と思っています。誰にも言うことができなかった。ゆうこさんが見て、交流会をやつてよかったなあと「思います」と嬉しそうだった。

午後からの実行委員会では、今後の方針や証言集の意味について黒井さんから提言があつた。 これまでは黒井さんとさち子さんが運営し (5面へ続く)

(4面から続く)  
てきた交流館だが、資料を、今後は九州や名古屋の整理や法人化に向けた制度の整理、実行委員会などの運営など、参加者によるようにしていくという。証言者を増やし、語担ってもらう部分を増やして、今年も展開としてあげられた。

### 強かった社会の偏見 口を閉ざした元兵士と家族

これまで元日本軍兵士やその家族が、戦時神経症について語れなかったのはなぜか？ 中村江里氏(広島大学教授)の『戦争とトラウマ』(吉川弘文館・2018年発行)には、貴重な研究内容が記されている。同書の中で、著者が聞き取った目黒克己医師(国立国府台病院 国立精神衛生研究所勤務)の証言が掲載されている。目黒医師が1941年、44年の間に退院した者から225人を抽出し、このうち生存が確認された176人に予後調査を行ったところ、「今後、一切このような連絡をしないでくれ」という返信が多く、面接に応じた者は20人だけだった。この理由として、目黒医師は、調査時点では精神病者への差別があり、精神病というだけで日本の

また、戦時神経症の原因の考え方も影響してきた。また、当時の国府台陸軍病院は恩給制度策定にも深く関与し、1938年に精神疾患になった軍人の専門治療機関となった国府台陸軍病院(現国立国府台病院)では、患者がもとも疾患になりやすい傾向があったり、恐怖や不安から逃げようとする願望や、不当に恩給(傷病軍人などに国から支給されるお金)を得ようとする心が発症させるという考えが主流だった。そのため、頭部外傷や伝染病等で起こる神経症とは区別される

と回答された。目黒医師は、国府台陸軍病院院長だった諏訪敬三郎氏から、「この種の研究は公表すると必ず差し障りがあるので、50年は口を閉じていた方がよい」と言われた。中村氏の一連の研究は2018年8月、NHKの『戦跡・薄れる記憶』で紹介され、大きな反響を呼んだ。交流会、実行委員会に参加したある女性は、「アメリカではベトナム帰還兵の戦時神経症が分かり、ケアの必要性が叫ばれたことから、戦時神経症は諸外国で当然のこととして認知されている。それなのに日本ではなぜ認知されていないのか、驚きでした」と感想を述べた。



三八式歩兵銃の莖莖(381式歩兵銃)は帰っていく。だが、いつか交流館の意味を知り、語り継いで欲しいと黒井さんは願う。部屋の奥に、陶器製の手榴弾や三八式歩兵銃の弾などが置いてあった。手榴弾は、有志で今年1月に訪問した手榴弾塚(埼玉県川越市)の見学会で拾った。歩兵銃の弾はいただいたもの。歩兵銃の弾を手取る

### 研究者による自己観察と 社会との関連

午後9時の証言集会実行委員会では、大阪の実行委員会に参加した研究者の論文も紹介された。

え直すこと)を用いて、戦時神経症が、復員兵と家族の個人的な経験、社会や文化、歴史と繋がっていることを検証した。中村氏は論文の中で、ベトナム戦争やイラン・イラク戦争の米兵の30%が、治療が必要な戦時神経症を発症しているという統計をあげ、「日本軍兵士の戦時神経症の発症原因は戦場体験であり、本人の責任ではない」と述べている。「PTSDは日常的に受けた家族た

これは、父(夫)の振るう暴力が戦争に起因することを知り得なかった」と記述している。大阪大学の北村毅氏は、「戦争の批判的家族史を書く」(2022年9月『文化人類学』掲載)において、祖父の戦争体験をめぐる家族史を成した。過去の暴力がどのように家族間に影響を与えているかを、歴史的・社会的観点を交えて検証した。

北村氏の祖父は1938年に23歳で徴兵され、陸軍騎兵学校で教育を受け、中国戦線で活躍した。戦後は、酒がこぼれ、PTSD

交流館が掲げる政府への要求項目として、PTSD兵士と家族の実態調査をあげている。①復員したPTSD兵士の数、②症状、③家族が行った対処、求める援助の館内(狭小)に置かれた本は、黒井さんの友人が送ってくれたものだった。向かいの地区の会館にある学童の子どものたちが時々交流館に来るので、お菓子やパンも置いてある。この日も、2人の子どもが来た。子どもたちは他愛もないことを話して

交流館の中を見せていただいた。木造で約6畳の館内に所狭しと置かれた本は、黒井さんの友人が送ってくれたものだった。向かいの地区の会館にある学童の子どものたちが時々交流館に来るので、お菓子やパンも置いてある。この日も、2人の子どもが来た。子どもたちは他愛もないことを話して

交流館の中を見せていただいた。木造で約6畳の館内に所狭しと置かれた本は、黒井さんの友人が送ってくれたものだった。向かいの地区の会館にある学童の子どものたちが時々交流館に来るので、お菓子やパンも置いてある。この日も、2人の子どもが来た。子どもたちは他愛もないことを話して

交流館の中を見せていただいた。木造で約6畳の館内に所狭しと置かれた本は、黒井さんの友人が送ってくれたものだった。向かいの地区の会館にある学童の子どものたちが時々交流館に来るので、お菓子やパンも置いてある。この日も、2人の子どもが来た。子どもたちは他愛もないことを話して



陶器製手榴弾の破片

昨年12月、NHKネタドリ「家の中に封じられた『戦争の傷痕』」で、黒井さんたちの活動や証言が紹介された。放映を見た当事者から、手紙や電話がかかることが増えた。「放送を見た」と言ってくれた。参加する人も現われた。

2011年3月11日 東日本大震災・私的クロニクル (part ①)

# 「比較」で矮小化された原発問題 今こそ平利利用の虚像を暴くとき

シネマプロス 宗形 修一



▲故・水戸 巖さん

福島原発の問題は、被災者救済の裁判などが現在も継続中だが、原発そのものの社会的意味と廃絶の本論に入っていない。今回はその試論としたい。

2011年3月、私は組合活動で解雇問題を抱えて多忙を極めていた。地震当日も会津若松の労働者の解雇問題で、団体交渉は結局、地震が収束しないのでこちらから打ち切り、郡山へ帰った

が、携帯は福島県の中通、浜通りは不通であった。当組合の書記長は浜通り・楢葉町の出身だったので、なんとか連絡を取りたいと帰途に就き、通話可能だったコンビニの公衆電話から家族と連絡がついた。

そして、根源的に原発を否定した水戸巖さん(1933~86)の著作『原発は滅びゆく恐竜である』(緑風出版/2014年)からの論理を引用して、このクロニクルを終わる。

■水戸さんは、独占資本の運動と恐慌として、思想家の羽仁五郎さんを引用して「真の危機は独占資本の危機である。あるいは、独占資本による地球の破壊という危機である。つまり、『ゼロ成長にする』だけでは意味がないんだ、ということだ。独占資本の法則として成長というのはあるんだ。独占資本を除かない限りこれは止まらないだろう」と語る。

■水戸さんは語る。「もともと原子力は、原子爆弾製造という軍事産業の延長として存在しています。現在もそのへその緒を切っていない原子力産業は、次のような比較のもとに、その存在を許容されてきたのです。

■水戸さんは語る。「もともと原子力は、原子爆弾製造という軍事産業の延長として存在しています。現在もそのへその緒を切っていない原子力産業は、次のような比較のもとに、その存在を許容されてきたのです。

福島原発事故直後の福島県民の被害状況は、  
▼負傷者16人(水素爆発負傷者)、2人(放射線熱傷) ▼損害：約21兆5千億円 ▼避難(計画的避難区域) 10万人以上 ▼避難 原発関連死は、2020年9月30日時点で2313人。

■原子力発電所は、核分裂で発生したエネルギーの3分の1を電力に変えるだけで、残りの約3分の2は、海に棄ててしまっている。100万キロの発電所は、その2倍の200万キロワットに相当する熱を海に棄てて海水の温度を上げてしまっている。これは、直接に漁業を脅かすだけでなく、地球全体の熱汚染という点からも無視できない問題となっている。

■水戸さんは語る。「もともと原子力は、原子爆弾製造という軍事産業の延長として存在しています。現在もそのへその緒を切っていない原子力産業は、次のような比較のもとに、その存在を許容されてきたのです。

■水戸さんは語る。「もともと原子力は、原子爆弾製造という軍事産業の延長として存在しています。現在もそのへその緒を切っていない原子力産業は、次のような比較のもとに、その存在を許容されてきたのです。

■水戸さんは語る。「もともと原子力は、原子爆弾製造という軍事産業の延長として存在しています。現在もそのへその緒を切っていない原子力産業は、次のような比較のもとに、その存在を許容されてきたのです。

水戸巖氏の警告は、その危惧通りに現出した。事故後の被災地の狂騒と悲喜劇の実態は、次回に記す。

## 《2011. 3. 11 ~ 4. 17》私の手帳メモ

共産党吉井英勝議員(京都大学工学部原子工学科卒)  
原発事故賠償法案は東電・大銀行救済の仕組み財源として 使用済み核燃料再処理引当金 → 2兆9千億円  
核燃料再処理費用積立金 → 16兆円  
日米原子炉メーカーに責任を取らせるべき  
電力10社広告宣伝費 10年間で9316億円  
発電コスト(1kW/時)  
太陽光 33円  
風力 9~14円  
水力 11.9円  
石油火力 10.7円  
LNG火力 6.2円  
石炭火力 5.7円  
原子力 5.3円

大企業の内部留保 244兆円  
共産党→従来の国債とは別枠の「震災復興国債」を大企業に引き受けてもらい財源に  
賠償は、電力業界・金融業界・原発メーカーなどに負担を求める  
3メガ銀行三菱UFJファイナンシャル・グループ・三井住友FG・みずほFGの利益 6000億円超《2011年4月~6月税引き後利益》  
最低賃金(中央最賃審) 657 + 1 = 658円

国・地方の長期債務 892兆円  
大企業の内部留保 200兆円/債務残高 997兆円(2011年度末)/国民1人当たり 783万円。GDPの2倍

その他に  
・廃炉・汚染水対策費 8兆円/賠償金 7兆9千億円/除染費 4兆円/中間貯蔵施設 1兆6千億円/避難区域 2750㌔

## 《2011. 4. 18 ~ 4. 24》メモ

マックス・ウェーバー  
「政治とは情熱と判断力の二つを駆使しながら堅い板に力を込めて、じわっじわっと穴をゆっくり貫いていく作業である」  
丸山真男  
「大日本帝国の実在よりも、戦後民主主義の虚妄の方に賭ける」

## 《2011. 4. 25 ~ 5. 1》メモ

貞観地震(じょうがんじしん) 869年  
《書籍のメモ》  
藤澤清造『根津権現裏』(新潮文庫)  
油井晶子『沖繩—アリは象に挑む』(出版記念会)

## 《2011. 5. 2 ~ 5. 8》メモ

トーマス・マン「最も多く愛する者は、常に敗者なのだ」  
小川裁判官「過大な期待は抱かない方がイイ」  
天地真理「若葉のささやき」作詞・山上路夫  
若葉が風とささやく街を  
愛をこころに わたしは行くの

## 《2011. 5. 9 ~ 15》メモ

『ショック・ドクトリン』(ナオミ・クライン)  
「TPPに代表される企業中心の新自由主義的論理が、被災者に対して襲い掛かる」としている。  
「ギリシャ」  
金持ちと貧乏人との間の生死をかけた戦争  
トロイカ (IMF・欧州中央銀行・欧州委員会)  
年金生活者は30%~50%の購買力を失った。失業率10%。

【韓国】尹政権、労働運動・市民運動を弾圧

# 進む軍事独裁国家への回帰

1月24日「MOnline」

K.J.Noh (アジア大陸に関する地政学者/平和運動家)

翻訳・脇浜義明

韓国の進歩的国民は尹錫悦の反動政治を恐れ、今年1月18日、ついに現実となった。その日の早朝、悪名高いKCIAの後継者である大韓民国国家情報院(NIS)が市民団体や労働組合に攻撃を仕掛けた。全国民主労働組合連盟(KCTU)は、国家財閥資本体のネオリベラル暴力と闘う100万人規模の労組統括組織だが、その本部と系列組合事務所にNIS工作員と警官隊がなだれ込んで、乱暴なガサ入れを行った。警官数百名のバリケード

封鎖で、駆け付けた組合員は中に入らなかった。保健医療労組(KHWWU)と、金属労組(KMWU)もガサ入れされた。組合役員、活動家、反戦運動家も自宅を襲撃された。「前代未聞の弾圧だ!」と労組役員は抗議した。さらにNISは、2014年4月のセウォル号沈没事件の犠牲者と、その遺族を支援する「セウォル号ピアース・シエルト」も襲った。

沈没事件では、済州島への修学旅行中だった生徒たちを含む304人が犠牲になった。生徒たちは「その場を動かずに救援を待て」と船員に言われたが、救援が来ないまま、親族へメールをしなから死んでいった。実はセウォル号は、乗客に内緒で鉄筋を大量に積んだ積載過剰状態だったのだ。この鉄筋は、済州島で中国封じ込め戦略の一環としての米海軍基地建設のための資材だった。しかも古い船で、荒海で急な進路変更をして転覆した。

つらつら、多大な犠牲者が出た原因は、政府の規制緩和と安全基準を無視した積載過剰、米軍基地建設を急いで乗客の安全を後回しにしたこと、当局の救出作業が8時間も遅れたことだった。ピアース・シエルトは、「全員救えたはずだった」というモットーで、犠牲者を弔い、遺族を癒す場だが、NISはそれを踏み越えて踏みにじった。

この攻撃の表向きの理由は、これら運動体が国家安全法に反していること、共和国と接触または協力して韓国に害をなすということであった。しかし、本当の理由は、尹政権が国民の人気のなさに危機感を抱き、進歩派を悪者に仕立てて政情不安を切り切るとういうものであった。政権批判デモは23件も起こり、延べ50万人の人民が尹退陣デモやストに参加しているのである。

尹政権への退陣要求は、彼の労働運動抑圧政策から発している。彼は選挙で「週120時間労働」の政策を掲げたことがあり、最近では交通労働者のスト参加者を投獄するという脅しをかけて潰した。他にも、日帝植民地時代の残虐行為をなかつたかのように振る舞い、米・日・韓の軍事同盟で中国を封鎖する外交路線への批判も起こっている。また、野党「共に民主党」への理不尽な弾圧や、妻

子のスキヤンダルもある。朴槿恵政権を倒した民主化闘争「ろうそくデモ」の記憶はまだ新しく、それに怯える尹政権は、先手を打って民主化運動を抑え込もうとしている。尹大統領は、米国の地政学的戦略の下請け国家、ネオリベラル資本主義を維持したい。そのため、市民から吹いてくる逆風に抗しながらも、かつての独裁的軍事国家(1948年の国家安全法に基づく警察国家)を目指している。彼は朴正熙の政治的DNAを引き継ごうとしているのである。



## 日本、またもや米国の槍持ち志願

# 岸から岸田へ、受け継ぐ米国追従

1月24日「Popular Resistance.org」(米米誌)

パトリック・ロレンス (作家/コラ)

翻訳・脇浜義明

日本の首相のワシントン詣では、誰も注意を払わない。1960年1月、岸信介が訪米したとき、アイゼンハワーはこの戦犯を歓迎し、日本人民が猛反対していた安保条約を結んだ。「ニューズウィーク」誌は、岸を「友好的で抜け目のないセーリスマン」と評した。

2023年、今度は岸田首相がバイデンと会談した。バイデンは岸田首相が、日本国憲法が禁止

米国の追従を進めてきた保守民族主義政党の迎合主義を具現化したといえる。米国がかつては「東」と「西」、「グローバルサウス」と「グローバルノース」に分け、「敵国」と指定された中国やロシアの間の仲介役を果たす可能性のあった国々を、強引に自陣営に引きずり込んだ。スウェーデン、フィンランド、ドイツは今もそういう立場を秘めているのに、昨年からウクライナ支援を強制されて、その役割を放棄した。日本も、かつては、

確かに岸はセーリスマンだった。4ヶ月後、彼は機動隊を使って野党議

は「その場を動かずに救援を待て」と船員に言われたが、救援が来ないまま、親族へメールをしなから死んでいった。

この攻撃の表向きの理由は、これら運動体が国家安全法に反していること、共和国と接触または協力して韓国に害をなすということであった。

2023年、今度は岸田首相がバイデンと会談した。バイデンは岸田首相が、日本国憲法が禁止

米国の追従を進めてきた保守民族主義政党の迎合主義を具現化したといえる。

尹政権が国民の人気のなさに危機感を抱き、進歩派を悪者に仕立てて政情不安を切り切るとういうものであった。

2023年、今度は岸田首相がバイデンと会談した。バイデンは岸田首相が、日本国憲法が禁止

米国の追従を進めてきた保守民族主義政党の迎合主義を具現化したといえる。

尹政権が国民の人気のなさに危機感を抱き、進歩派を悪者に仕立てて政情不安を切り切るとういうものであった。



# 『ヨニニッパ音楽祭』への誘い 基地も安保もいりまへん

## …原発も!

### 浪花の歌つ巨人・パギヤン (趙博)

「ヨニニッパ(4・28)」とは、「1952年4月28日」のことです。

1951年9月8日にサンフランシスコで署名され、翌1952年4月



28日に発効した『日本国との平和条約(地名をとって「サンフランシスコ講和条約」とも言います)』によって、「本土」ではアメリカ軍の占領が終わわり、日本国は「主権を回復した」と

28日に発効した『日本国との平和条約(地名をとって「サンフランシスコ講和条約」とも言います)』によって、「本土」ではアメリカ軍の占領が終わわり、日本国は「主権を回復した」と

「ヨニニッパ(4・28)」は「沖繩デー」として、日本全国で集会やデモが行われていたのです。4・28(ヨニニッパ)沖繩デー、6・23(ロクニッサン)反安保デー、10・21(ジュツテンニイチ)国際反戦デーは「平和人権平等」を訴える労働組合や学生自治会、その他様々な市民団体にとって、街頭に繰り出して政治的主張を訴える「旗日」でしたが、何時の頃からか取り組まれなくなりまし

た。同時に『日米安保条約』と『日米地位協定』も発効して、「1952年4月28日」は沖繩が日本から切り捨てられた日でもありました。因みに「1952年4月28日」は、在日朝鮮人・中国人の選挙権が剥奪された日でもあることを忘れてはならないでしょう。1969年からずっと、

### 辺野古基地建設の加害者にはならない

さて、沖繩県41市町村全ての首長 議会議長が署名・捺印し「オスプレイの配備撤回、普天間飛行場の閉鎖・撤去と県内移設断念」を求めた「建白書(政府や長上などに自己の意見を申立てる文書)」が2013年1月、安倍晋三首相(当時)に手交されてから10年が経過しました。この間、辺野古新基地建設(普天間飛行場代替施設建設事業)に反対する沖繩県民の意思は揺るぎなく、2019年2月の県民投票では72%が辺野古埋立に反対の意思表示をしました。そして、昨年9月の選挙で玉城デニー知事が再選されたことは、辺野古新基地反対の民意が強くあることを如実に示しています。

にも拘わらず、この国の中央政府は「民意を尊重する」という民主主義のルールを踏みじり、工事を続行・強行し続けています。辺野古新基地は、普天間飛行場にはない軍港や弾薬庫の機能を備える拡大強化された米軍基地の新設であり、アメリカ軍事基地の永久的固定化以外のなにものでもありません。為されるべきは基地の整理縮小・撤去であって、新たな基地建設では断じてないのです!

日本国中央政府は、辺野古新基地建設の工費は9300億円、今後の工期12年と公表しています。沖繩県の試算では工費は2兆5500億円にものぼります。また、昨年8月までに投入された土砂の量は、全体の12.3%にすぎません。

埋め立て予定の大浦湾側には軟弱地盤があり、政府が工事を続けるには「設計変更承認申請」に対する沖繩県知事の承認が必要です。知事

- 4月28日(金) KCC 会館・大ホール (大阪市生野区中川西2丁目6-10) 開場 17:30 開演 18:00 終演 20:30 【出演】パギヤン、竹象、川口真由美、ヤギリーズ(李知承、青柳林、すだっち)、ダンシングよしたか R&R フォレバース
- 4月29日(土) いくのパーク(旧御幸森小学校) 多目的室 (大阪市生野区桃谷5丁目5-37) 開場 12:30 開演 13:00 終演 20:30 【出演】天眞爛漫☆、裏猫キャバレー、アカリトバリ、始放浪記、カオリンズ、あーまきちまき、宮城善光、新垣宏 & フレンズ、デカルコ・マリィ、中川五郎
- 参加協力券 1,000円 / 賛同金・カンパ大歓迎!
- 主催:「ヨニニッパ音楽祭」実行委員会
- 予約専用電話: 090-8146-1929 (Cメール可)

### 編集後記

僕は3・11直後から東電前で抗議し、激動の末心臓病となり大阪へ避難。本紙勤務と共に避難者運動「ゴウエスト」を立ち上げた。思いは多々あるが、同運動の街頭で友人が歌ってきた歌が最も根源的・階級的なので紹介したい。「♪作業員全員撤退せよ/作業員全員ストライキ/作業員全員逃げたら/自民党员110万人にやらせろ/世界最強のストライキ/フキイチストライキ/どんな要求だって通すぜ/要求を断つたら/北半球壊滅/あいつらの財産が人質だー」フキイチストライキで検索を。また街頭に立てる元氣を取り戻したい。(囃)

つまり、沖繩を「本土」の捨て石にして植民地のように扱いつけることに終止符を打ちましょう!

四、辺野古新基地建設の断念を勝ち取る「微力」になりたい!

「ヨニニッパ音楽祭」は、そんな願いと希望を、あなたと分かち合う場です。さあ、2023年の「ヨニニッパ」にあなたも参加してください!

### 【緊急】救援連絡センターからお願い

## 「活動費」の未払い解消のため カンパと定期購読をお願いします

救援連絡センターは、68年からデモなどで不当逮捕された人々に、弁護士接見などの支援を行ってきた組織です。岸田自公政権は戦争準備と人々の生活破壊に突き進んでいます。デモやセンターの必要性は増えています。

センターの毎月の大きな「現金支出」は、「事務所家賃等」(20万強)、「救援紙製作費+発送費」(25万)、「コピー複合機」(ネットセキユリティ機)・

電話器リース料等(8万)と事務局員(現在定員4人)の「活動費」(諸般の事情で実際には2人分)(14万)で、最低でも毎月67万強の支出があります。しかし、中でも「活動費」の支払いが滞っています。収入は、協力会費・「救援」購読料の滞納分を納入していただいたうえ、新たな協力会員・「救援」購読者の増加・拡大に努めたいと思います。昨年未収の収支では、救援

連絡センターの会計は100万強の赤字です。協力会員・「救援」定期購読者拡大とカンパへのご協力をお願いします。

・協力会員(会費 月1000円 何回でも)  
・「救援」定期購読者(年間購読料11開封の場合4500円、密封の場合5000円)  
・郵便振替口座 001000-31105440

▼救援連絡センター/東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階/電話・03-3591-1301、FAX・03-3591-3583/メール・kyuen2013@gmail.com